

## クワジェリン環礁に関する文献収集を目的としたハワイ渡航

人間・環境学研究科 修士課程 2年

大竹 碧

アメリカ合衆国

2018年1月19日～2018年2月27日

### 計画の概要

報告者は、マーシャル諸島共和国のクワジェリン環礁で米国軍事基地の機能とミサイル実験を理由として移住を強いられた人々の生活や土地観念の再構築のあり方を対象として文化人類学的な研究を行ってきたが、日本国内やマーシャル諸島共和国内では入手・閲覧できる歴史的文献資料が限られていた。そこで、太平洋諸島関係の文献が豊富に揃い、先述したマーシャル諸島国内の複数の機関でも勧められたハワイ大学マノア校のハミルトン図書館を訪問し、第二次世界大戦以後から現在に至るまで米国とマーシャル諸島の2国の政府と、クワジェリン環礁の土地所有者が行ってきた交渉の過程を探るための公文書の収集を計画した。報告者は、自身がそれまで行ってきたマーシャル諸島クワジェリン環礁での参与観察型の調査とハワイ大学での文書の調査の成果を接合することで、クワジェリン環礁の土地所有観念に関する通時的な研究を行い、文化人類学が主な着眼対象に置く「現在」と、そこに至るまでの歴史的過程の両方を検討する視座を模索することを目的としていた。

また、渡航に際しては、ハミルトン図書館のキュレーターとハワイ在住マーシャル人の調査協力者に連絡を取り、本文献調査での資料収集と安全確保の面で指示と協力を仰いだ。

### 成果

報告者はハワイ大学マノア校のハミルトン図書館、で文献調査を行い、大きく分けて以下の3種類の文書・マイクロフィルムを収集した。

(1)クワジェリン環礁の土地権をめぐる問題に関する資料: マーシャル諸島政府・クワジェリン環礁の土地権所有者・米国政府の三者間の交渉に用いられた手紙や公文書、土地使用に関する合意書、土地に関する裁判の記録、米国軍部作成のクワジェリン環礁の土地利用計画 など

(2)クワジェリン環礁やイバイ島に関する人々の捉え方を反映する資料: マーシャル諸島唯一の新聞である「Marshall Islands Journal」の1966年~1989年間の記事、クワジェリン島の軍関係者向けの新聞「the Kwajalein Hourglass」の1960年代の記事、クワジェリン環礁の米国による軍事利用に関するルポルタージュ など

(3)マーシャル諸島やクワジェリン環礁に関する先行研究として重要な資料: ハワイ大学関係者のみに公開されたマーシャル諸島関係の博士・修士論文、Jack. A. Tobin, Lawrence M. Carucci, Alexander Spoehr らによる古典的なマーシャル諸島研究 など

また、当初計画していた文献調査に加え、報告者はハワイ大学の人類学部での短期の客員研究員資格(米国滞在のJ1ビザを要しないもの)を取得し、研究に関する面談や報告を通して当該学部の教員や大学院生との交流も行った。



ハミルトン図書館マイクロフィルム資料コーナーでの公文書収集の様子